

20-41st 5/26

海自艦・船長は不起訴処分 衝突原因を釣り船に帰す不当判決



「あたご」事故など軍艦・自衛艦と民間船の衝突事故の真相究明・被害者救援に関わってきた。

その中で2014年に『あたご事件―イージス艦・漁船衝突事件の全過程』（本の泉社）を著し本書は2冊目となる。衝突によって民間人犠牲者が出た「事件」と表現していることに著者の立ち位置が表れている。

その2014年1月に広島県沖で自衛艦「おおすみ」と釣り船が衝突、釣り船の2人が死亡した事件では、広島で結成された「自衛艦」おおすみ事件の被害者を支援し真相究明を求める会に参加。

広島地検が「おおすみ」の艦長らを不起訴処分と

し、検察審査会も「不起訴相当」と議決したために、遺族・被害者・会は2016年5月、事件の真相を明らかにする最後の手段として、国家賠償請求訴訟に踏み切った。不起訴後、マスメディアの報道はなくなり、国賠訴訟も提訴時だけの報道でその後は途絶えた。

東京在住の著者は今年3月の判決まで24回の裁判をすべて傍聴、その内容を市民団体のブログや海事労働者向け雑誌などに精力的に執筆、発信し続けた。

本書は判決前に出版されたが、裁判や取材で明らかになった「衝突の原因が自衛艦側にある」とことを広く伝える。しかし判決は衝突原因を釣り船側に帰す不当なものだが本書はその不当性を映し出す鏡となっている。

（本の泉社1200円）
沢田正（広島支部）

著者はJCJ会員で『日米安保を読み解く』（窓社）など、安全保障問題に詳しい。

1988年潜水艦「なだしお」と衝突した遊漁船の30人が亡くなった事故以来、2008年の